

式 辞

平成三十一年度畿央大学入学式において、ただいま畿央大学健康科学部ならびに教育学部への入学を許可された皆さん、誠におめでとうございます。

ご来賓の皆様のご臨席を賜り、学部長、学科長、事務局長をはじめとする教職員一同とともに、入学式を挙行し、皆さんの入学をお祝いできることは、畿央大学としても大きな喜びとするところであります。

さらに、この日を迎えるにあたり、これまで長きにわたり入学生の皆さんを見守り、励まし支援されてこられたご家族および関係者の皆様方にもお慶びとお祝いを申し上げます。

畿央大学は、ここに学ぶ学生の一人ひとりが将来のありたい姿、夢の実現に向けて、大きく成長できる、素晴らしい教育の場です。この教育の場は、畿央大学の構成員である、学生、教職員、そして既に社会で活躍されている卒業生が一体となって作り上げてきたものです。

今日からは新入生である皆さんもその中に加わり、お一人おひとりが人生の夢の実現に向かって、自ら道筋をつける努力をされ、人格的に大きく成長されることを期待しています。

畿央大学では、学園の創設者である冬木智子名誉学園長が五十五年前に掲げた教育への理想を、建学の精神として人格形成の拠りどころとしています。

建学の精神の一番目は、「徳をのばす」ということです。徳とは、人の寂しき、悲しきを察する心をもって、優しさを世界中に広めていこうとする心のありようです。

入学された皆さんは、各自が持つておられる「徳」をのばすことをもって、心に秘めたやさしさをチカラに、人に幸せを与えられる人になっていただきたいと思ひます。

二番目は、「知をみがく」ということです。これは、人類の進歩向上は、自己の才能を最大限練磨することであり、私達はあくことなく頭脳を磨き、励まし合い、研究的な態度を養い、あくことなく知的探究を行うという、「学びの姿勢」を示す言葉です。

物事に対し「なぜか」という疑問を持ち続け、分かるまで探究を続けるということを実践していただき、専門知識を深く学んでいただきたいと思ひます。

三番目は、「美をつくる」ということです。美とは、何かを作ろうとする活動のゴールに対する最高の評価を示す言葉であり、憧れの対象となるものです。芸術作品はもとより、工業製品から、自然科学の法則、数学の定理、さらに魅力ある心や生きる姿など、具象的なものから抽象的なものまで、そのありようが、すべてが美の対象です。

美は人に感動を与えます。そのような美を創り出せることは大きな喜びであります。「美」をつくることに加わり、美への憧れを秘めた一人になっていただきたいと思ひます。

建学の精神を指針として畿央大学でこれから学ぶ際には、皆さんが夢を実現し活躍する社会で求められることは何かということ、一方では考えておくことが必要です。

政治経済情勢が世界規模で大きく変わり、情報通信技術の発展がその変化を加速している中で、近い将来の社会を予測することが困難になっています。

予測困難な社会においてみなさんに求められること、それは「柔軟に課題・問題を解決し続けられる能力」を持っていることです。そのような将来の社会を生き抜くのに必要とされる能力とは、想像力（イマジネーション）、創造力（クリエイション）、理解力、共感力、多様な感性などです。

マスコミなどでは、人工知能技術、AI技術の応用により色々なことが人間以上にできることが報道されていますが、必要とされる能力は一言で言えば人工知能（AI）技術で取って替わることができない能力です。

そのような能力を身につけること、培うことは容易ではありませんが、大学での学びの中で、その能力を育んでいただきたいと皆さんに期待しています。

大学での学びについて私が大切と思うところをつぎに述べます。

一つ目は、知識や技術を「学ぶ」姿勢です。重要なのは、自ら能動的に学ぶ続ける姿勢です。

学び続けることの原動力は、「分かること」の楽しさを経験することであると考えます。「できる」というだけでなく、「分かる」という段階に到達するために、「なぜか」という疑問を何事に対しても持ち、常に考え追求する姿勢を持ち続けてください。「なぜか」と問う知的好奇心を大切にし、分かるまで考え続けることができれば、分かることの楽しさを経験でき、同時に深く理解することができます。

分かることを重視する学ぶ姿勢は、大学の中での学習や研究の時だけでなく、大学生活のすべての局面において持ち続けてください。

学外実習、地域連携の取組み、国際交流などに積極的に参加すれば、多くのことが学べます。感動や喜びの経験も、学習への大きな動機となります。このような学びの積み重ねにより、豊かな人間性が育まれ、建学の精神の「徳をのばす」ことにもつながります。

二つ目は、学ぶ対象について視点です。知識・技術を体系として捉える視点です。

専門分野の知識は、個々の要素知識をまず理解することが必要です。さらに、個々の要素が互いにどのように関係しているのかを知ることが必要です。それらの関係が分かると、その分野の専門知識を体系的に理解することができます。

体系的に把握できるようになると、関連のある他の専門分野の知識との関係が見えてきます。

さらに、知識や技術の個々の要素は、それを現場でどのように使うのか、問題の解決にどのように適用するのか、ということに結び付けて理解すると、より実践的な知識、確かな技術となります。

これから大学で学ぶ専門知識や技術を、記憶するだけの寄せ集めではなく、他の分野と関連している知識・技術の体系としてとらえる視点を常に持ってください。

三つ目は、「学び」の保存です。知識や技術は常に発展・拡大します。これから学ぶことを大切にし、生涯にわたり成長させることを入学当初から計画してください。

授業で出てくる専門用語の確認やレポート作成の際には、インターネットで検索をして情報を収集しますが、皆さんが卒業して社会で活躍しだすころに、その情報を同じように検索して見つけることができるでしょうか。

これから皆さんが学ぶ専門知識と技術に関して、デジタル化されている資料や学習記録は整理して順次保存し、大切な個人の知識・技術の財産として蓄積することを心がけてください。皆さん全員に大学から最新のノートPCを貸与しました。どのように情報を整理し保存していくかは情報処理演習の中で指導いたしますので、在学期間中はその中に個

人の学習記録も含め、知識・技術のデジタル資料を系統的に保存し学習に活用して下さい。

卒業時には、その個人の知識と技術の財産を持って卒業し、社会で活躍されるなかでさらに新しい情報を追加し、成長する個人の知的財産として生涯にわたり活用して下さい。

畿央大学における以上のような学びをとおり、入学された皆さんが、将来の社会ニーズに応え続けられる能力を身につけ、人間として大きく成長されることを期待いたします。

皆さんの大学における学びと人格形成は、お一人おひとりの絶えざる努力・研鑽からもたらされるものであるとともに、仲間である学生と教員、職員の一体的な協力、さらに教育研究面での社会への貢献など、畿央大学総体としての活動の中で達成されるものです。

畿央大学は、皆さんの参加を得て、教育研究活動をさらに充実発展させ、教育研究の質と、社会への貢献において、日本の中で高く評価される大学の一つであり続けることを、学生、教職員とともに目指したいと思っております。

今日この入学式の様子を映像を通してご覧いただいている保護者の皆様方におかれましては、本日、ご子息・ご息女の晴れの姿をご覧になる喜びは如何ばかりかと存じます。ご子息・ご息女が大学生活の中で自立していかれる様子を温かく見守って頂き、また畿央大学に対してもご支援、ご協力をいただきますよう、よろしくお願い申し上げます。

最後になりましたが、たいへんご多忙の中をご出席いただいております、広陵町長様（、香芝市長様）をはじめ、ご来賓の皆様方に厚く御礼申し上げます。今後とも畿央大学での教育にご理解をいただき、引き続きご支援をいただきますようお願い申し上げます。

以上をもちまして本日の式辞とさせていただきます。

平成三十一年四月二日

畿央大学 学長 冬木正彦